

令和7年度 学校評価 評価書(一覧)

評価基準 A—80%以上(良い) B—60~80%未満(まあまあ良い) C—40~60%未満(あまり良くない) D—40%未満(良くない)

園学校名 認定こども園安田さくら園

項目	中長期経営目標	短期経営目標	短期経営目標の達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
知	子どもの興味関心を高め、主体的に取り組もうとする力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的にかかわり、豊かな体験に繋がる環境の工夫 ・身近なものと出会い興味関心に合わせて、遊びの中で挑戦する気持ちに寄り添う ・子どもの発する言葉、表情、繰り返し取り組む姿等から楽しさを読み取り、援助、環境構成について再考 ・興味関心のある活動にじっくりと取り組むことができる時間・空間、発達に応じた扱いやすい遊具・用具の確保 ・各年齢の指導計画に基づき、発達をふまえ気づきや学びにつながる環境の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの育ち、個人の発達に目を向け幼児理解に努める。子どもの興味やその時期に必要な経験をもとに環境を整える。又、初めて手にするものは言葉や表情・仕草を見ながら気付きや学びに繋がりが広がるよう関わった。又、子どもの興味関心を探り、育ちを捉えたりしながらやってみたいと自ら取り組めるような環境を構成、子どもの様子を見ながら数の増減や配置の工夫を行うようにしてきた。しかし、一人一人に応じて先を見通し今必要な経験がきるように関わるものの難しさがあった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・発達に見通しをもち環境にどのように関わっているのか子どものつぶやきや表情などを見逃さず子ども理解に努める。 ・子どもが自主的に活動できる環境の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児から年長児まで幅広い園児の育成に関して、広い知見をもって対応してもらっている。子供たちの居心地のいい環境作りを、また個々の園児にあった教育をお願いする。 ・ここ数年で、小規模になってしまったが、先生たちのキャリアも積み重ね、年々一人一人への保育の質がよくなっている。 ・引き続き子どもたちが、自主的に考えて活動できる環境づくりをしていって欲しい。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> ○身近な環境とかかわる中で、思考力の芽生えを育む ・やりたいことを見つけ、好奇心や探求心をもち工夫したり、試したり、考えたりしながら多様なかわりを楽しむ空間と場の確保 ・夢中になって遊ぶ体験を重ね、新しい考えを生み出す楽しさが味わえる環境の工夫 ・子どもの発達段階や遊び・生活経験などをふまえて、遊びの展開を見通し、複数の援助を想定しておくことで活動の広がりを促す ・子どもの興味関心や発達・時季をふまえた教材研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の時間配分を意識しじっくりと遊び込む時間を作る ・子どもが自分で試行錯誤できるように見守りや自分で考えられるような問いかけを意識し関わった。身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり考えたりできるように工夫するが、遊びが続かず諦めてしまう子どもの姿もあり、遊びの展開を見通すことには難しさがある。 ・園庭の環境作りが不十分であったことが課題 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で素材や道具の研究を重ねる。 ・子どもの興味関心に寄り添い、できる喜びを少しずつ増やす等関わりの工夫。 ・園庭の環境を意図的に構成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年長期間にわたって桜の木の虫害で遊具が使用禁止になっているのは園児の遊びの機会損失になっており良くない。農薬等で対策できないのであれば伐採を検討してみても(日よけはシート等で代用)。 ・四季を通じて、自然のものにふれたり、様々な道具や遊具を使って、沢山考え楽しみながら遊べる環境になればいいと思う。 	B
		<ul style="list-style-type: none"> ○職員の資質、実践力の向上を目指す ・指導計画をもとに、日々の環境を見直し意図的に構成する力を高め保育に活かす ・日々の保育の出来事などから子どもの育ちを捉え、振り返りをもとに翌日の保育へと繋げる ・園内研修を行い、子どもの見方、捉え方、援助の仕方、環境構成等各クラスの実態に応じて協議し、子ども理解や発達に添った保育のあり方を探る ・互いに保育を語り合い、高め合う職員集団を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・2~5歳クラスで園内研修を実施。クラスの実態に応じて協議を行う中で、保育者が願いをもち保育することの大切さを再確認 ・子どもの姿が自分の予想と異なった場合は捉え直しや援助を振り返り次につなげることで子どもの理解を深めることになった ・日常の中で子どものこと・保育のことを話す機会はあるが、保育内容を伝え合う機会が作れなかったことが課題 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士で子どもの育ちを共有し多面的に捉える。 ・職員間の連携(日常的に保育の内容を伝え合う時間の確保)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の連携は取れていると思う。今後も保護者と情報を共有し取り組んで欲しい。 ・引き続きコミュニケーションを取りながら職員の資質向上に努めて欲しい。 	B
徳	人と関わる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の発達を促す環境の工夫と保育者の援助 ・年齢に応じた取り組みと一人一人の言葉の発達に応じて思いや考えを引き出す援助 ・自分なりの表現が友達に伝わる喜びと活動が共有されていく満足感を味わえるよう状況に応じた関わり ・自分なりに言葉等で表現しようとする意欲を育む <ul style="list-style-type: none"> ○絵本に親しむ中で、イメージや言葉を豊かにする ・絵本の楽しさを十分味わうことができるよう題材や理解力などに配慮して選択し、多様な興味関心に応じる ・読み聞かせを通して、色々な言葉に触れ言葉の獲得に繋げる ・絵本や物語を楽しむ中で、イメージを広げ様々な気持ちに触れ他者の思いを知る機会とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの言動を受け止めることを大事にしながら関わる。しかし、言葉での表現の仕方が分からない、状況にあった言葉がつかえないことでいざこざになることがある。 指さしや表情から気持ちや要求を読み取り、言葉にして返したり、気付きやつぶやきを見逃さないようにし共感したり、言葉を足したりしてきた(乳児)。又、子どもの発達に応じて思いを代弁し言い方を知らせたり、見守るなど個々に応じて丁寧に関わった。自分なりに表現する嬉しさや相手に伝わる嬉しさなどが感じられるように関わった(幼児)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面で言葉が育まれやすいのか探る。 ・子どもに伝わる伝え方の工夫と個々の育ちに応じた保育者の関わり。 ・家庭で読み聞かせの時間が取れない現状があることから、園での読み聞かせの充実や参観日等に触れあえる場の提供を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の絵本の読み聞かせはすごく大事だと思う。色々なジャンルの本・図鑑(虫・動物・花・魚)折り紙の本なども置いておくに興味を持つ子どもがいると思う。例えば園庭で虫を見つけた時に図鑑を調べる事で色々吸収できると思う。 ・今、園で人気のある読み聞かせの絵本が貸出絵本 	B

		<p>○保育者や友達に認められる体験を通して、自分の良さに気づき自信をもって行動できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の良さが活かされた集団作り ・子どもの発する欲求に応え、安心できる環境作り ・十分に自己を発揮し、保育者や友達に認められる体験を通して、自分の良さに気づき自己肯定感を育む <p>○道徳性・規範意識の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達や異年齢児と様々な体験を重ねる中で、思いやりの気持ちを育む ・決まりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し友達と折り合いをつけながら決まりを作ったり守ったりする意識を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室の絵本の環境を整えることで、子どもが自ら選んでみようとする姿があった。 ・保育者が意図的に一人一人の良さを意識して知らせることで友達の良さに気付くことにつながった。友達の良さを知ることが出来るように関わってきたことで友達を認める姿、つながりが深まる姿が見られつつある ・生活や遊びの中で子ども達がやってみようと思える関わりや小さな成功体験を積み重ねるように関わった ・異年齢の関わりや子ども同士の活動が充実するように関わる 			<p>の中にないのが残念。「オススメ！」としてピックアップしていただけると良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉だけでなく様々なかたちでコミュニケーションを取ることで相手と関わることの楽しさや色々なことを感じることが出来る環境づくりをしていって欲しい。 	
体	健康な心と体の育成	<p>○基本的な生活習慣の定着に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケートを計画的に実施 ・生活習慣が身につくように子どもや保護者に定期的に発信 ・一人一人の家庭状況を把握し、家庭との生活の連続性を大切に、発達や経験に合わせた援助 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施することで各家庭の実態把握が出来た。保護者の知りたい事、日々悩んでいるであろうことを取り上げ質問したり、おたよりで発信することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てのヒントや、保護者が読んでみたくなるような内容を探り発信。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度、要望したアンケートの項目が少しずつ反映されていて良い。 ・引き続き発信をしていって欲しい。 	B
		<p>○体力向上と運動習慣の定着に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさが実感できるように発達段階に応じた多様な動きに着目する ・体を使った遊びを計画的に取り入れる ・子どもの生活を見直し必要な動きを意図的に取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールのある遊びや集団遊びは取り入れることが出来たが子どもの弱さや必要な動きなどを意図的に取り入れることは不十分である。乳児クラスでは、子どもがよくする動きを遊びの中に取り入れるなどの工夫を行い体を動かす心地良さが感じられるように関わった 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画に組み込みながら実践 ・子どもの課題を見つけて、保育の中に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす機会を沢山作ってあげて欲しい。 ・年長の発表会の練習の様子を見た。昔遊びを取り入れ、コマ回しは、小学校になっても出来ている。 	B
		<p>○食育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の栽培を通してその生長に触れ、収穫した作物を口にする事で食べる事への興味関心を深める ・年齢に応じた食事のマナーを身につける ・食への関心を養い望ましい食習慣の育成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気の中で食べることを大事にしてきたことで友達と一緒に食べることを喜ぶ姿や季節の食材ふれに興味をもつことが出来た。しかし、どの年齢においても食事のマナーが身に付いていない現状がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に応じて育てたい姿を明確にし職員間で共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートをでは食育活動について少し園の活動が理解されていないようなので親子一緒にを多くしたらどうかと思う。 ・保護者との情報共有を深めて欲しい。 ・食事マナーなどは、家庭を巻き込んで取り組まないと園だけでは難しいのでは。 	B
連携・協働	学校・家庭・地域との連携	<p>○学校、家庭、地域との連携した活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちについて保護者の理解を深める ・保育に関する情報を園だより・保育参観・行事等を通して発信 ・園だより等で地域にも発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの担任がおたよりの工夫を行い発信する。伝えたい事が多くなると文字が多くなりがち。 ・担任の伝えたい事・保護者の知りたいことにズレがある。伝え方の難しさをどの職員も感じている 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の知りたい事・求めていることを探り保護者が興味をもつような伝え方や書き方を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートを見るとC 評価付ける世帯が少数いるようだが、園としても対応が大変だと思う。職員間で対応を共有し粘り強く説明をお願いします。 ・近年の保護者は子育てへの向き合い方が多様化し、そのズレが園への要望にも反映されている。 ・引き続き、園だより等を通して情報を発信して欲しい。 	B
	就学前教育の充実	<p>○特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする子どもへの理解を深める ・個々の特性について理解したうえで個別の支援計画を作成し支援 ・全職員で情報共有の機会を作り、園全体で見守る ・他児との関わりの中で共に成長することを大切に捉え必要な配慮を行う ・小学校へのスムーズな接続が図れるような取り組みや工夫を行う ・園小交流事業を計画的に行う <p>○親育ち支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の現状を踏まえ、家庭に応じた適切な支援を行う ・保護者の安心感や信頼感に繋がるよう組織的に取り組む ・良好な親子関係や子どものかかわり方、育ちについて保護者の理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援研修会や中芸の巡回相談を通して支援が必要な子どもに対して具体的な支援方法を学ぶことで、支援計画に取り入れ実践に生かすことが出来ている。しかし、園全体での情報共有が十分で来ていないことが課題。子どもの姿を読み取り今の支援方法、上手くいっていること、難しさを感じていることを整理し語る力を付けていく必要性を感じる。 ・親育ち支援では、保護者と適度な距離をとりながら丁寧に関わってきた。情報共有を行い同じ姿勢で子どもに関わる事が出来た。それぞれの保育者ができる支援を行い園全体での取り組みを行うことで、少しではあるが、保護者に変容が見られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園全体で見守るという意識をもち、必要に応じて情報を発信する。上手いかない時や学んだことが活かされない時は担任だけで考えるのではなく園全体で考える場を作る。 ・有効だった支援方法を検証し次年度に続けて取り組めるよう引き継ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生してまだ数年の子どもたちで、教えても十分理解できないのが子ども。繰り返し教えてあげて欲しい。 ・園小で連携を組んでいる点は評価する。さらに、保護者と情報共有して取り組んで欲しい。 ・これからの園の役割として「親育て」も求められているのでは。家庭と連携する上で、園側からのアプローチ(行事・おたより・参観日等) 	B

						として、そうした視点も求められる。「親」も5歳未満なので一緒に育っていく環境を上役だけでなく、子どもの特性を一番理解している担任・副担任が、有事の際に子どもがどのように動き、どう守るのか、考えて動けるように訓練して欲しい。	
	安全教育・安全管理の充実	<p>○危機管理マニュアルに基づき安全管理の意識を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の避難訓練やその他の様々な災害を想定した訓練を行い、非常時の対応について主体的に判断し動けるようにする ・子どもの安全を守ることができるよう全職員で気づきを共有できる場を作り、職員間の連携に努める ・子ども達に保育の安全指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練では、想定外の場面で臨機応変に対応できるよう毎回想定を変えて実施。しかし、毎回同じ訓練と捉える職員の姿もあった。職員間で伝え合うこと・助け合うことに課題が見られ職員間の連携の弱さが課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な想定を考え実施。それぞれの役割を明確にし職員の声を取り入れた訓練の実施。 ・自分事として捉え考えて動ける職員を増やすために防災に関する研修に参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を作成し、想定外の訓練実施は評価する。 ・安全に子どもたちが過ごせるよう安全管理には、なお気を付けて取り組んで欲しい。 	B